

## 会長短信

政 志 郎

昨年10月同志社大学体育会航空部は75周年記念事業開催致しました。大学からは大谷實総長・八田英二学長・龍城正明副学長、スポーツユニオン濱直樹会長・佐野修弘最高顧問・藤原卓也理事長、各大学OB会々長、監督の御出席を賜り航空部OB・現役含め総数180人の記念祝賀会を開催できました。偏に皆様の御協力の賜物であります。感謝申し上げます。

75周年事業はH17年11月6日寧靜館402号室で幹事会から具体的計画のたたき台で始まり、20数回の委員会を重ね、新庄委員長・松岡事務局長の献身的な努力と若手年次委員の協力により盛会裏に終えられたことに、実行委員の皆様とその努力に、敬意とOB・OGの物心両面の御協力に感謝感激しております。誠に有難う御座いました。

14年に亘り副会長・会長を務めさせて戴きましたが75周年記念事業を無事終えましたのでこの期に辞し、若手の有為な人の時勢に見合う思考力・体力・行動力の有る人材を登用して、閉塞感の有る翔友会を未来に向かって行動する躍動感の有る翔友会にと変革できる若手で再生を願っております。

日本は課題先進国でありながら問題の先送りや切羽詰まっております。同様な姿が翔友会にも現れている。少子高齢化で現役部員の減少、OB会費の収納率の低下、平成時代の卒業生の翔友会への帰属意識の少なさ、現役への支援の有りが翔友会の財源の枯渇等の問題山積で有るが、新会長初め幹部の方々は75周年記念事業の進捗会議の中で十分理解し、新しい発想で翔友会への求心力を高める施策を打出しており数年後には再生された明る

い活動的な翔友会に変革していること確信しております。

全国制覇が何故達成できないのか？

学生は学業に専心することは重要であるが徳育に対する隙間がないか。空を翔る熱意は有る、数少ない部員で各種技能証明取得者も多く居る、練習を滞りなく単独で合宿する時の各認定者もいる。勝利をもたらすにはどのようにすれば達成できるか悩み不足でないかもっと悩みその悩みをブレイクスルーできた時新しい自分が有る。

監督・コーチ陣が部の目標・個人の目標を明確に見切り、具体的戦術を提示し、現役の主体性を引出す。練習における作業改善・動作分析による1フライトの時間効率化(サイクルタイムの短縮、安全・安心を中心にした練習)智恵を出し考える飛行集団に変革できないか。

先輩諸氏が智恵を出し、現役が本気になれば必ず勝利の神は航空部に力を与えてくれます。全国制覇するため現役・先輩が喧々諤々議論することにより新しい施策を編み出し、夢を現実のものにしていくシーズを提言いたします。今後の翔友会の課題として先輩諸氏の建設的なご意見を待ちます。

最後に航空部100周年迄に田辺校地に滑空場を作って欲しいと75周年記念事業で私の夢として大学当局に訴えましたが実現すること夢みております。

永い間、皆様の御協力・御鞭撻有難う御座いました。

## 部長短信 新しい飛躍の機会を得るということ

山口博司

75周年記念行事が終わり、航空部もまた一つ、歴史の節目を迎えたこととなります。航空部の歴史は、取りも直さず、日本の歴史、また日本が歩んだ航空史の写しでもあります。諸先輩方が作り上げた、業績と精神をよく引き継ぎ、やがてそれらをこれからの発展に生かす、そういう機会を、諸先輩方から直接、生の声で聴くことが出来たことは、大変意義深いことでもあります。

昨年の東日本大震災、またそれに伴う津波、原発事故は、凄まじい破壊を伴う事象でした。文明の進化は、往々にして破壊と建設の繰り返しでもあります。このような時こそ、その文明、すなわち我が国が根幹に持つ価値が発揮されなければなりません。持続可能な社会を作る、と言う言葉、特に、持続可能という言葉が良く使われます。大変、穏やかな、よく耳になじむ言葉であることは

間違いありませんが、よく考えますと、社会、また自然科学も含め、すべてのことは、その創成以来、持続可能性を内に含むものであり、あえて取り上げて議論するものではありません。それより、何よりも大切なことは、進化のために変えていくことが重要であると思います。私たち人類も、アメイバーから猿を経て、今の姿になったように、絶え間なく変わることが、進化の道であります。それが、今回のような自然災害であれ、また、今の日本を取り巻く、経済、政治であれ、これらを英知で乗り越えて、より良い方へ変わることが肝要であると思います。

75周年記念行事を契機に、新しい飛躍の機会を得たということ認識して、これからの新しい航空部に発展せねばなりません。今年も、航空部への皆様方の暖かいご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

## 会長就任のご挨拶

昭和47年卒 大久保雅史

政先輩が10年の永きにわたって翔友会会長を務められました。そのご苦勞に感謝いたします。

75周年記念式典が成功裏に終わりましたのもご功績であります、重ねて深謝いたします。

その後も引き続き会長をお願いするのが良いと考えていましたが退任を口にされ、私のような若輩者にご指名を頂きましたが、翔友会会長の大臣はとても引き受けるわけにいきませんので辞退申し上げます。

しかし最終的に引き受けする事に成りましたのは、窪田顧問の、「お前もぼちぼち航空部に恩返しする歳だろう」の一言が胸に突き刺さって抜けなくなってしまったからです。

青春時代に大空に舞い、様々な経験をしたあの楽しい仲間と過ごした事を思い出し、航空部のお陰であったと思い、引き受けする事にしました。

OBOGの方は勿論、関係者の方へのご恩返しも含め翔友会会長を精一杯務めさせていただきます。何卒宜しくお願い申し上げます。

翔友会の創立主旨はOBOGの親睦ですが私はそれに加えて現役を支えてやれる翔友会になるべきだと、現役の活躍が有ってこそ翔友が輝けるのではないかと、皆様もご賛同いただけたらと思います。是非とも宜しくご指導、ご鞭撻、ご支援をお願い申し上げます。

さる2月26日の翔友会総会で会長就任のご承認を頂き既に一ヶ月が経過しましたが2012年度活動方針での3月の“全国大会応援”が実績です。方針に付きましての詳細はこの翔友27号の翔友会総会の項を御覧下さい。

現役の航空部組織と、OBOGの翔友会組織は当然異なる組織ではありますが、現在の現役学生、学連、訓練、他大学などの状況を考えますと同志社大学体育会航空部とそのOBOGの翔友会は一体になり、現役学生とOBOGが融合し相乗効果を発揮し発展していく“時”になっていると考えます。

現役学生とOBOGが共に大空を舞うことが現役学生の支援に繋がり、レベルアップと交流が出来る。そして歴史と伝統が脈々と継承される素晴らしい組織になると考えます。

つい先日の同志社スポーツユニオンのOBOG会長会に政前会長と共に出席をしました。

その折に私は三つの目標を申し上げました。一番目は全国大会制覇。二番目にOBOG、現役学生から世界選手権大会に出場する。三番目に同志社大学体育会航空部の専用滑空場を創る事の三つを掲げました。どれも簡単に実行できることでは有りませんが達成できる目標ばかりです、当面は一番目以外は無理でしょう、これはやり様によっては来年にも可能でしょう。

現役学生と監督、コーチ、教官団の熱意、執念と翔友会の皆様方の絶大なご協力、ご支援があれば実現出来ます、皆様のご協力で導入してきた新機体ASW28は乗り手を待っています、期、機ともに熟しています、選手をスパルタンに養成するのみかと。二、三番目も時間、費用と情熱が必要ですが実現可能です、二年間の任期中に何処までやれるか判りませんが体力と精神力の続く限り頑張りますのでよろしくお助け頂きます様お願いします。